

令和元年度 第1回岡山県立図書館協議会

日 時：令和元年8月22日（木）14：00～16：00

場 所：岡山県立図書館 サークル活動室

出席者 ○委員：秋山委員、貝原委員、工藤委員、土井委員、二部野委員、道広委員、
宮野委員、八束委員

○県立図書館：狩屋館長、奥山副館長（総務・メディア課長）、清友総括参事
（サービス第二課長）、林総括参事（サービス第一課長）、笠原図書館
振興課長、松本資料情報課長、神田総括主幹（企画・メディア班長）

欠席者 ○小野委員、伐明委員

1 開会

2 開会挨拶

県立図書館 狩屋館長 挨拶

3 資料確認・委員紹介

4 協議・報告

(1) 岡山県立図書館の運営状況等について

資料1

資料2

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

感想として、地域の幸福度で岡山はすばらしい。政令指定都市も大きいところでないし、産業もいつも中くらいだが、その中でも図書館が充実している。

【委員】

資料1の3～4ページにある協力貸出しの状況について、自分は県北にいるが、県立図書館の本が身近なところで借りられたり、返せたりということが随分浸透してきたと実感している。予算が減ったということで心配していたが、関係者の努力で個人貸出しなどキープできているのがすばらしい。

【委員】

岡山県は学力があまり良くない。本を読む子は勉強もできる。

【委員】

学力は点数だけでは評価できない。学力はなくても立派に仕事をしている人はいる。テストの点数を稼いだ人が立派というわけではない。岡山はすばらしい。安心してよい。

【事務局】

県でも問題にしているのが、学生の不読率である。毎年の集計で、残念ながら岡山県の小中学生が全国平均を下回っている。せめて全国並みにということで岡山県子ども読書活動推進計画にも記載している。県立図書館でもできる限りのことをしたい。

【委員】

ナクソスの利用状況はどうか。

【事務局】

館内外で利用できるが、館外ではインターネットを通じてパソコンで利用できる。年間約1万3千件で一日平均40件くらいの利用がある。

【委員】

存在をあまり知られていないが、これが普及するとCDやレコード屋がなくなる。ただ、ジャンルがクラシック中心だ。ポピュラーなどを提供するとか、あまり音質にこだわらない方がいいのではないかな。

【委員】

入館者が減っていることについて、豪雨災害の影響も考えられるとのことだが、年齢構成や男女比のデータをとっているか。

【事務局】

来館者アンケートを実施している。利用層としては中高年層が多く、60代と70歳以上を合わせて約40%で三分の一以上が高齢者である。ただ、夏休み期間中などは子どもが多い。男女比では男性が50.7%、女性が49.3%でわずかに男性が多い。

(2) 第3次中期サービス目標について

資料3

資料に基づき、事務局から説明

【委員】

学校がとにかく忙しくて、図書館に足を運ばない。学校図書館と連携して本の行き来ができていてありがたいことである。

【委員】

学校の搬送システムや学校セットの貸出しについて、搬送費が高騰し予算が厳しい中、必要な本を必要な分だけ取り寄せて貸出しをセーブしているので、学校図書館への協力貸出冊数が少なくなっているのだと思う。先生やその年度によってテーマが違ったり、セットにない本を単品で借りるという方法がいい時もある。テーマによっては学校セットが使えないことも多々ある。先日は学校セットを3つ借りて1クラス40人の生徒の授業に対応した。先生は授業の10日ほど前に言ってこられたので、曜日の関係でセットの予約をするのがギリギリだった。セットの予約もするし、各テーマに沿った本も検索するという形で対応したが、検索するのもかなり時間がかかる。そういう時に学校セットとしていろいろなテーマのセットがあるのはありがたいと思っている。生徒にも県立図書館から借りた本であり、大切に扱うようにと伝えている。生徒は県立図書館からの支援を受けていると実感して使っていると思う。高校は県内各地にあり自力で県立図書館に行けない子も多い。そういう生徒が直接図書館に来られなくても協力貸し出しを通じて支援を受けることができる。搬送費の高騰は理解しているが、引き続き支援をお願いしたい。

【事務局】

学校セットについても引き続き充実を図っていきたい。搬送費が高騰しているという

こともあるが、できるだけ要望に応えたいと思っているので、遠慮なく予約していただきたい。学校セットについては、司書の先生がいる学校は利用があるが、司書が事務室と兼務というところは利用が難しいという学校もある。今年度試行という形になるが、希望する学校にセットを持って出向き、こんなセットがある、こんな展示ができるということをして直接学校に行ってアドバイスをする事業を、新たにやってみようと思っている。色々な学校セットを組んでいるので、できるだけ有効に活用してもらいたい。

【委員】

いつから実施するのか。対象はどの学校か。

【事務局】

今年度の後半から。この後学校にお知らせして回りたい。まもなく学校に通知がいく。今年5校程度の希望を募って回る予定。対象は、希望によるが地域のバランスを見ながら学校セットの利用が少ない学校を回りたい。複数希望が重なった場合はこちらから学校の様子も聞きながら調整させていただきたい。

【委員】

学校への通知だけでは、分からないのではないか。

【事務局】

岡山県総合教育センターで実施する教員向けの講座で、学校セットについて説明する時間をいただけないかと打診しようと思っている。司書部会にもお知らせし、少しでも広まるようにしたい。

【委員】

県民に開かれた図書館という項目について、先日新聞記事を見ていたら、図書館のあり方として長くいてもらう図書館という考え方が出てきているとあった。素人考えだと閲覧席にあまり長く居座られても困るのかと思うが、例えば認知症の方に積極的に来てもらって、様子を見ながら場合によっては福祉につなぐということだった。そういえばここ数年、新年度が始まる前など学校にいけない子どもに図書館で過ごしてくださいということもあった。本を見たり情報提供するだけではない役割が出てきているのかと思った。

【委員】

認知症の問題は大きい。どこからどこまでが認知症かわからない。そういう人たちに對して図書館がどういうことができるかがこれから大きくなる。イギリスなどは認知症フレンドリー社会である。認知症の人に対して対応できているような色々な施策をやっている。認知症と言ってしまうと病気のように思うが病気ではなく、能力が衰えるなど自然の流れである。図書館もこれから考えていかなければならない。まだ自分も日本の中で先進的なことをしているか研究できていない。病院などでも2～3割が認知症のあるような人が来院しているといわれている。図書館も同じではないか。

【事務局】

滞在型の図書館ということと、図書館がサードプレイス、第三の居場所と言われている。今年度図書館の研修で、その研究をされている先生を講師に招いて研修を行ったところである。それと特に現在、大きな社会的な課題である認知症については、今回、認知症にやさしい図書館を目指すということで図書館職員の研修を予定している。認知症

の方へのかかわり方ということで、県の長寿社会課から認知症サポーター養成講座の講師を招いて県内公共図書館や当館の職員が話を伺う予定。この講座を受講した人は認知症サポーターとなる。今、国を挙げて認知症サポーターを養成しているが、図書館の一人ひとりがサポーターになっていこうという講座を企画している。認知症にやさしい図書館というのは認知症の方だけでなくだれにも優しい図書館ということであり、県内の図書館職員を含めてそうした図書館をめざし研修を行っているところである。特に図書館については、高齢社会と図書館研究会というところも全国組織でできている。これから人生100年時代になるのでどのように図書館が役割を果たしていくのか研究されるので、情報収集し研修に励んでいきたい。

【委員】

第三の居場所とは何か。また第一、第二は何か。

【事務局】

第一は家庭、第二は学校や会社である。それらではない別の居場所ということ。

(3) 岡山県内市町村立図書館の動向について

資料4

資料に基づき、事務局説明

【委員】

県民一人当たりの貸出冊数について、これは来館者の年齢と比例したような数になっているのか。

【事務局】

市町村の図書館から総数でいただいた数字を集計しているため、指標での年齢内訳はわからない。

【委員】

年配の人がよく読んでいるのか、若い人が読んでいるのかわかるかと思ったが。新しい図書館はいい。利用者も増えるし。どこも新しくなった。

【委員】

今どきの新しい図書館は自分たちがイメージしていたのと違う。本屋がなくなった。

【委員】

知人で本屋を経営している人に話を聞くと、本が売れなくなって困っているという。盗難にあうので、万引き対策で防犯カメラを設置したり。県立図書館では年間で紛失や盗難と思われるものはどのくらいあるのか。それに対する対策はどのようにしているか。

【事務局】

閲覧室入口のところにBDSという機械を設置しており、これによりほとんどの無断持ち出しは防げている。本に磁気が貼ってあり、その磁気をカウンターや自動貸出機で外さないとBDSが鳴って知らせるようになっている。

【事務局】

毎年蔵書点検を行っており、年間100冊を少し超えるくらいの本が不明となっている。

【事務局】

144万冊のうち100冊かもしれないが、当館は基本的に本は1冊しか買わない。紛失すると図書館としては困る。

【委員】

一時期破損や書き込みなどが問題になったが、今は少しはおさまっているか。

【事務局】

毎年マナーアップキャンペーンを行っており、実際に切り取られたり、破れた個所をセロテープで修正された本、水に濡れた本などを展示し啓発している。セロテープなどで補修されると余計に破損した形になるので、やめていただくよう啓発しているが、ケースとしては多い。水にぬらされたり、コーヒーをこぼされている本も多い。

【委員】

最近は公共物を傷める人もみられる。

【事務局】

弁償を求めることも多い。

【委員】

長期にわたって未返却となっているものもあるのか。

【事務局】

ある。督促はがきを送ったり、年に2回ほど職員が出向いて督促を行っている。お会いできる場合は直接話をしている。不在の場合は、県立図書館が督促のために訪問した、本を返してほしい旨の文書を入れている。

【委員】

内容証明は利用しないのか。

【事務局】

費用的な面もありやっていない。返してもらえればその場で済むし、督促のためにお伺いしている対応を知ってもらうことも意義があると考えている。

【委員】

本を無くした人は素直に弁償に応じるのか。

【事務局】

人によるが、弁償してくれる人が多い。

【委員】

返却期限に1日でも遅れたら電話をするのか。予約が入っていなかったら、借り続けられるのか。

【事務局】

1日くらいでは督促はしない。予約が入っているものを優先して督促している。予約は入っていないが、返却期限が大幅に過ぎているものについては定期的に督促を行っている。

【委員】

雑誌などに切り取りが多い気がする。

【事務局】

コピーをするのが面倒なのか、雑誌もそうだが新聞も多い。特に宝くじの結果欄や飲食店の割引券など。

【事務局】

そのようなことをされると保存としての用をなさなくなるので非常に困る。読み終わった新聞を県庁各課にお願いして譲ってもらうこともある。

【委員】

新聞コーナーは警備員が巡回しているのか。

【事務局】

定期的に巡回している。

(4) その他

資料5

資料に基づき、事務局説明

【委員】

ロゴマークの最優秀賞は何がもらえるのか。

【事務局】

5000円分の図書カードである。

【委員】

記念事業とは直接関係ないが、15年経つということで、書庫の余裕はどのくらいあるか。

【事務局】

建築当時は230万冊を収納できるスペースがあり、今140万冊ということなのでもう少し余裕はある。

【委員】

自動化書庫はどうか。

【事務局】

自動化書庫は40万冊収納できる。雑誌のバックナンバーや定型のものなど、大きさが決まっているものを収納しているが、もう少しはもちそうである。

【委員】

トークショーは普段図書館を利用しない人も来られると思うので、この機会にぜひ図書館の良さが来館者に伝わるよう、良い宣伝機会になるとよい。

【委員】

日本一の図書館なので、ゆるキャラがあってもいいのでは。

【事務局】

ゆるキャラとの撮影会も含めて、様々なイベント企画を検討している。

【委員】

図書館自身のゆるキャラがあってもよいと思っている。